

Hiroba と Roji がむすぶまち - つながりを育む地形と屋根 -



1. Hiroba = 栗の駅と資料館を繋ぐ公共空間を創出します

A. 安全・快適 B. 調和・コミュニティ



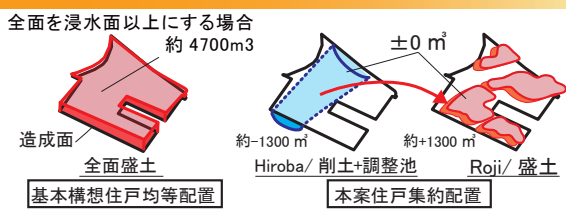
1-1. 様々な拠点を結ぶ Hiroba

- 住宅を左右に集約することで、栗の駅と資料館をつなぐ **Hiroba** をつくります
 - Hiroba** は村の既存の拠点を結ぶハブにもなります
 - 北側と南側の拠点をスムーズにつなげ村の中で様々なつながり方が変わります
 - 栗の駅の広場と一体的にイベントすることもでき、車両の進入可能とします
- 1-2. モードチェンジする **Hiroba**
- 普段は日常・観光動線、住民の活動の場となります
 - お祭りやイベントなどの非日常時には村民や観光客集まり、にぎわいを創出します

3. 排水計画に有利な地形を生かして、掘削土を最小限にしながら全ての住宅を浸水レベル以上とします

A. 安全・快適 B. 調和・コミュニティ

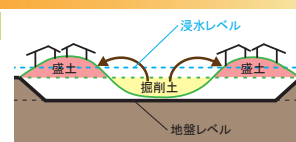
3-1. 住居の集約配置で盛土量を削減



- Hiroba** を予定造成面より低くすることで発生する掘削土を住宅側の盛土として活用します
- 住宅を適切に集約し、盛土による嵩上げ範囲を限定し盛土量を最小限に抑えます
- 搬入土を最小限に抑えることで、トータルの整備コストや周辺環境への負担を軽減します

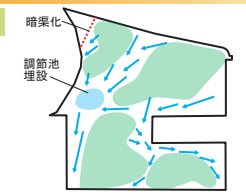
3-2. 全ての住宅を浸水レベル以上に建設

- 全住居を浸水レベル以上の安全な高さに確保します
- 必要な場所を的確に盛土します
- 敷地内の掘削土を盛土に利用します



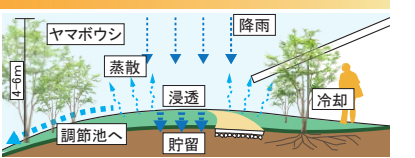
3-3. 緩やかな地形が水の流れをコントロール

- 敷地内の微地形は、豪雨時の雨水を広場・埋設調節池へと導きます
- 前面道路境界には縁石を設け、敷地内の雨水は全て敷地内で処理する計画とします
- 北東の既存水路は暗渠化します



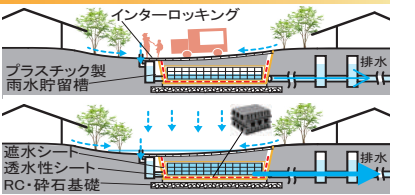
3-4. 浸水を防ぎ、植物を育み、水を浸透させる盛土

- 住戸を浸水から守る盛土は、地中への雨水浸透の機能を兼ねています
- プライバシーを守る為の適度な生垣を施し、防災のための盛土を日常風景に取り込みます



3-5. 集いの場になる埋設した調節池

- 調節池は雨水を一時的に貯留するプラスチック製雨水貯留槽を地下に設けます
- 表面をインターロッキング等の仕上することで、イベント搬入車両やキッチンカー、緊急車両などの重量車両も入る事が出来ます





4. Roji＝住宅の間に小さなスケールのパブリックスペースをつくります

A. 安全・快適 B. 調和・コミュニティ

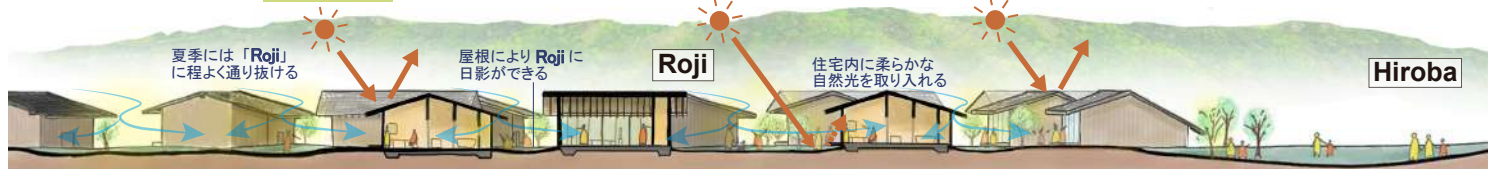
4-1. 親密なスケール感の路地空間

Hiroba

- 住宅間の隙間に生まれる小さなスケールの **Roji** はプライバシーを確保しながらも住民同士が安心して暮らし、自然に顔を合わせる親密な環境となります
- 大きなパブリックスペースから住まいへ段階的に移り行き、プライベートとパブリックを緩やかに仕切る場所となります

4-2. 安心して子供たちが遊べる路地空間

- 単なる移動空間ではなく、住民の様々な関係を生み出します。軒先で挨拶や井戸端会議、**Roji** に面した縁側に座って子供たちの遊びを見守ったり住民同士が地域の絆や安心感生み出す空間となります
- 人と人との自然な距離感や温もりを感じられ、子どもや高齢者、災害時の支え合いにも寄り添い安心安全な住環境となります



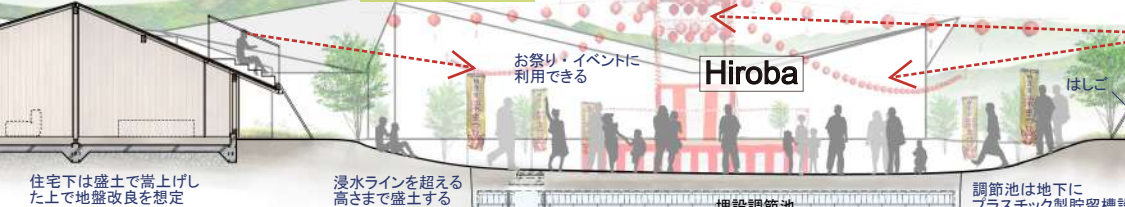
5. 心地よい風が通り抜ける快適な住環境をつくります

A. 安全・快適 E. 環境配慮・省エネ



5-1. 恒常風と呼応した住宅配置

- 恒常風である夏の南・南東の風が **Roji** に程よく通り抜けるように、住戸を適切に配置します
- 住宅内にも取り込み、省エネや環境にも配慮した計画とします
- 冬の北・北西の風に対しては防風林を配して路地への通り抜けを防ぎます



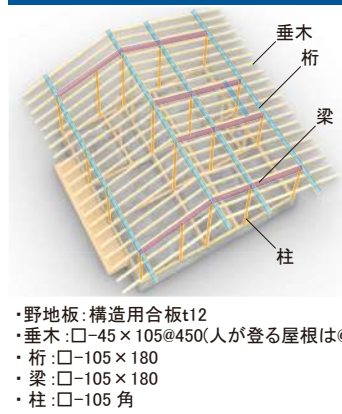
7. 県産木材をふんだんに使用した安心安全な構造とします

7-1. 流通材で建設可能

- 流通材だけで構成された合理的で施工しやすい安心安全な構造計画とします
- 特殊な構法や納まりを減らし、建設コスト抑制をはかります

7-2. 熊本県産材で構成

- 構造体には熊本県産材であるスギを活用し地域木材産業や森林資源の循環に寄与します
- 内装も木質化し木の温かみを感じられる住環境となります



・野地板：構造用合板I12
・垂木：□-45×105@450(人が登る屋根は@300)
・桁：□-105×180
・梁：□-105×180
・柱：□-105 角

7-3. バランスの良いべた基礎

- 住宅の基礎構造は不同沈下のリスク、バリアフリー、コスト面において、バランスのとれたべた基礎形式を採用する想定です
- 最終的には現地にて地盤調査を行った上で構造検討をし、基礎形式を選定します

基礎形式	べた基礎	布基礎	布基礎高床
地盤改良	◎	○	○
沈下	◎	○	○
バリアフリー	◎	○	○
コスト	◎	○	○

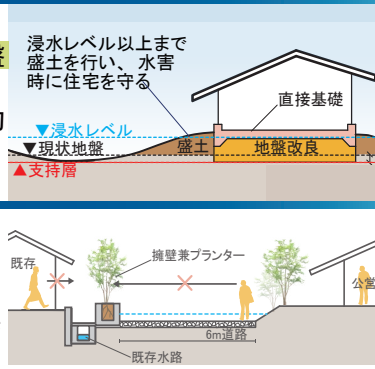
※最終判断は地盤調査による

7-4. 地盤改良

- 住宅部分は浸水レベル以上まで盛土した上で支持層まで地盤改良を行います
- 地盤調査を行った上で最終的な方法検討します

7-5. 隣地への配慮

- 既存住宅の外周部には擁壁と目隠しを兼ねたプランターを設置します
- 庭の前には生垣をつくり各住宅のプライバシーにも配慮します

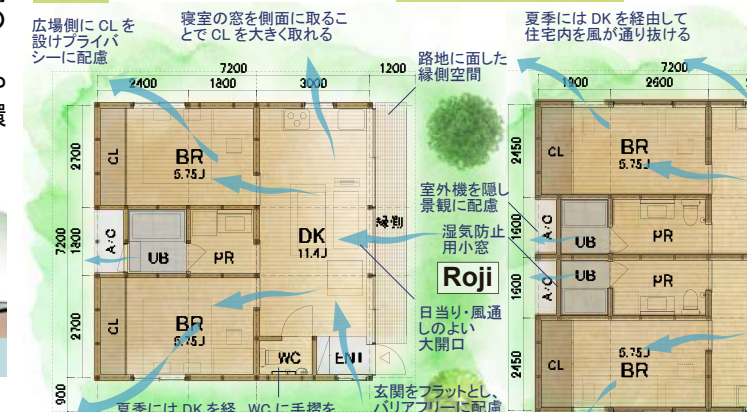


6. 外部空間と繋がる シンプルで子育てのしやすい住居をつくります

A. 安全・快適 B. 調和・コミュニティ D. ユニバーサルデザイン

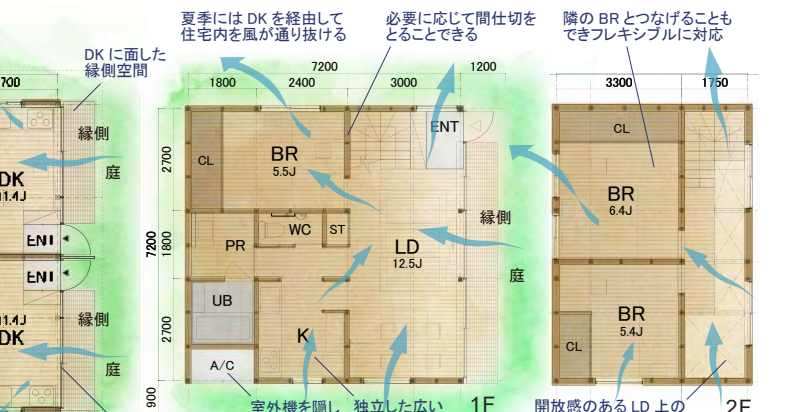
6-1. A,B,C の3つのタイプのシンプルな間取り

- LDKは **Roji** 側、プライバシーの高いBRは反対側に配置します。
- BR窓はプライバシーに配慮して小さく、側面に配置します



6-2. 環境・バリアフリーに配慮し安心快適な住環境

- 南／東向き住戸を基本とし、自然光や風を最大限取り込み、省エネ・環境に配慮します



8. 環境負荷・コスト抑制に配慮した

E. 環境配慮・省エネ E. コスト

8-1. 環境負荷軽減しランニングコストを抑制

- 自然光、恒常風を取り入れ環境負荷を軽減します
- 庇の日射遮蔽により住宅の熱負荷を軽減します
- 高効率な設備機器・LED照明・節水型水栓を採用します
- 耐久性が高く長寿命な資材を採用し、メンテナンスによるランニングコストを抑えます

8-2. 初期段階からの綿密なコスト管理

- 計画初期から積算事務所と連携し綿密なコスト管理を行います
- 初期段階に超概算をし、工事区分ごとに物価上昇に配慮した目標金額を明確にし、無駄無い建設コストを実現します
- 工期短縮を図り、施工面にも配慮した計画とします

想定工事費
十・地盤工事(25 百万)
躯体工事(175 百万)
屋根工事(45 百万)
内外装工事(90 百万)
設備工事(120 百万)
外構工事(130 百万)
仮設・経費(200 百万)

概算工事費：785 百万円